

## 学部・講義：幼児教育（保育）の道を、自ら学び、考えながら進んでいけるための基礎知識を身につける

幼児教育・青井倫子

### 1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

### 2. 受講学生 14名

- 1回生：12名（教育心理2名，幼年教育7名，発達障害2名，生活環境1名）
- 3回生：2名（教育心理1名，家政教育1名）

### 3. 授業の工夫

- (1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。
- (2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

### 4. 授業評価の方法と結果

最終授業終了後にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入してもらった。

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
- 4：ややそう思う（よい）
- 3：どちらともいえない（ふつう）
- 2：あまりそう思わない（あまりよくない）
- 1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	4.6
話し方は明確・聞き取りやすかったか	5.0
重要なことを強調したか	4.9
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.8

授業への熱意・工夫が感じられたか	4.9
内容・レベルは適切だったか	4.3
課題は有益なものだったか	4.8
考えが培われたり得るものがあったか	4.6
学問をする雰囲気は保たれていたか	4.7
教職に就くうえで有益だったか	4.8

### 5. 授業時間外学習の促進

以下の2つの課題は、本学着任時から現在まで17年間、「幼児教育学」の課題（授業時間外学習）として継続して課しているものである。

【課題1】4年間を見通した際、幼児教育の歴史を学ぶ機会が少ないので『児童中心主義の保育』（森上史朗著、教育出版、1984年、全7章、305頁）の各章の概要をまとめることを課し、学期末に提出させている。

【課題2】幼児教育に関する基礎的な用語や知識を習得させるため、毎授業時に4～7個の用語を指示し、次の授業時まで文献や辞書で調べた内容をレポート（1つの語句についてA4半枚程度）にまとめて提出させている。複数の辞書にあたること、辞書だけでなく概論書なども読み、その上で“自分の辞書”を作るつもりで、まとめるように指示している。

#### (1) 1週間あたりの自主学習時間

今年度の受講生の授業時間外学習の時間は、およそ2.5～3.3時間/週であった。

#### (2) 課題についての学生の感想・意見

今年度受講生のみでなく、以前の受講生（現在の2～4回生）にも回答してもらった。以下、抜粋を掲載。

#### 【『児童中心主義の保育』の要約について】

<1回生>

・頁数が多く内容も専門的だったので、理解

が難しく、時間がかかって大変だったが、保育の流れや重要人物を知れておもしろかった。

- ・授業に出て来たフレーベル主義などについて、より深い理解につなげることができた。
- ・要約したことで、ただ読むだけよりも頭に残った。

#### < 2回生 >

- ・将来幼児教育に携わりたいと考えているので、歴史を知っておくことは大切だと思った。
- ・どのようにして現在の保育内容・保育方法に至ったのか、その歴史を知るとともに、保育に携わってきた重要人物についても知ることができて良かった。
- ・要約することで、自分の中で内容を整理しながら学ぶことができた。

#### < 3回生 >

- ・これまで様々な人が理論と実践を積み重ねてきた上に現在の保育があり、これからも時代の流れに応じて変化してくのだろうということを感じた。
- ・1回生の時に専門書を読んでおくことで、その後の授業で本から得た知識を思い出しながら学ぶことができた。

#### < 4回生 >

- ・様々な人の考え方や実践が絡み合い、改善しながら高め合ってきたからこそ、今の幼児教育が在るのだと感じた。幼児教育は流動的で、日々変わりつつあるところがあると思う。今まで受け継がれて来たことを尊重し、そして歴史を振り返り見つめることで、今の幼児教育、今の子どもたちに学んでほしいことを考えていけるようになりたいと思った。
- ・要約することにとっても意味があり、重要な部分をできるだけ自分の言葉で要約することで、より理解を深めることができた。
- ・この本を読むことで、その後の学びにすごく生かすことができたと感じている。

### 【用語調べについて】

#### < 1回生 >

- ・自分の言葉でまとめることで理解が深まったし、自分の力になることがわかった。
- ・当初は負担が大きいと感じていたが、保育士になりたいと決めてからは、自分の知識が増えることの喜びを感じるようになった。
- ・週に4～5時間、用語調べに時間を使った。調べたことを「用語調べノート」にまとめ、2冊目に突入した。用語調べで調べたことが

授業中に出てくる度にノートを見返すことで復習ができてよかった。

- ・図書館で勉強する習慣もつき、この課題は私にとって、とても意味のあるものになった。

#### < 2回生 >

- ・たくさんの辞書の内容を比較することで、内容を深く理解することができた。また、必要な情報をまとめる力も身に付いた。
- ・用語調べで取り上げられた言葉は、他の授業でも目にする機会が多いものだったり、基本的な語句だったりしたので、用語調べをすることで意味を定着させることができた。
- ・この課題を機に、色々な文献を読む時にも注意しながら読むようになったので、非常に意味のある課題だった。

#### < 3回生 >

- ・発達心理学の辞書と幼児教育に関する辞書では、同じ語句でも微妙に書き方が違っていて、その点を踏まえた上でまとめるというのは、とても勉強になった。
- ・辞書にこだわらずいろいろな本を手にするので、いろいろな視点から1つのことを見ることができると実感した。
- ・その用語についての基礎知識だけでなく、その言葉や概念が発見された経緯など、深いところまで学べた。
- ・毎週、県立図書館と中央図書館に行った。この課題のおかげで、図書館を利用することの良さ、楽しさ、おもしろさを感じ、図書館を利用する習慣の基礎になった。

#### < 4回生 >

- ・用語調べをきっかけに、大学では常に辞書を持ち歩き、分からない言葉があるとすぐに調べる習慣がついた。分からないこと、気になることを自分で調べ、自分のものにしていく習慣をこれからも大切にしたい。
- ・用語調べで調べた用語は、4回生になった今でも自分の身に染みこんでいる。
- ・授業で学ぶ内容と課題で調べた用語が関連していたので、授業が理解しやすかった。
- ・辞書を丸写ししたり、教えられるままに丸覚えするのではなく、自分自身で調べ、解釈し、自分なりに分かりやすい言葉で表現してまとめることで、強く印象に残り、有意義な学びにつながった。
- ・授業でその用語が出てくると、「話が分かる!」「調べてよかった!」と、成長した自分に気づくことができた。